

# 解散のオリンパス駒工会 母校に積立金を寄付

市) 駒ヶ根工業高校(駒ヶ根勤務する有志らでつくる「オリンパス駒工会」が昨年12月に目録を手渡した。同会は半世紀ほど前、当時



福田浩一校長(左)に目録を手渡した浦野正明さん

に解散し、55年間の活動で積み立てた会費60万円を、県を通して同校に寄付した。最後の会長を務めた浦野正明さん(59)が2月28日夜に同校を訪れ、「ものづくり現場で活躍できるよう、生徒の育成に役立ててほしい」と、福田浩一校長のオリンパス伊那工場に勤務していた有志らで発足。同社製カメラを同校に寄贈したり、同校文化祭で同社製顕微鏡を展示し観察の仕方を来場者に伝えたりするなど、母校に貢献してきた。ただ、最盛期に約70人いた会員は、昨年の減少にコロナ禍での活動自粛が重なり、昨年12月、55年の歴史に幕を下ろした。

目録を受け取った福田校長は「感謝の念に堪えない。(浄財を)教育活動にしっかりと生かしたい」と述べた。浦野さんは「解散は苦渋の選択だった。今後も同窓会の一員として、学校を支援していきたい」と述べた。(寺田英祥)



ご購入ありがとうございます

3月2日(水)

発行所 長野日報社

〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000(代)

©長野日報社2022